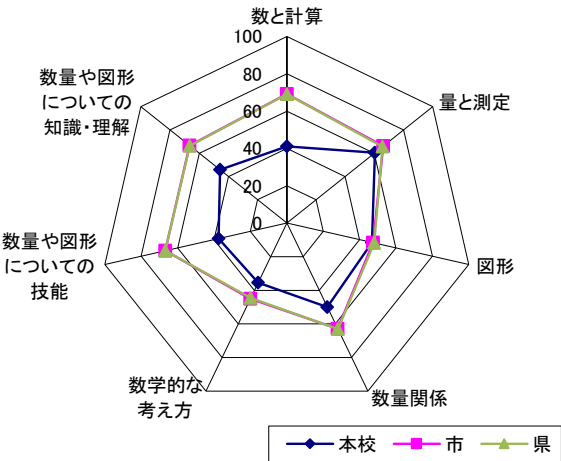


宇都宮市立富屋小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	41.1	69.2	69.1
	量と測定	60.4	66.1	65.6
	図形	46.8	47.4	48.0
	数量関係	50.0	62.9	63.1
観点	数学的な考え方	35.4	45.1	44.6
	数量や図形についての技能	37.5	66.8	66.8
	数量や図形についての知識・理解	45.8	66.6	66.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○小数と分数の大小関係を不等号を用いて表す問題については、市・県の平均正答率を上回った。少数や分数の大小について、基礎的なことを理解している状況が見られる。 ●小数や分数、かけ算、わり算の計算については、市・県の平均正答率を下回った。	・朝の学習や宿題プリントを通して、反復練習し、計算技能の習熟を図る。 ・少人数指導担当教諭と連携し、一人一人の学習の実態に応じたきめ細やかな指導の充実を図る。 ・グループ学習等を通して、分からなさに寄り添いながら学び合うことで、より理解を深めるような指導を工夫する。
量と測定	○「はかりに示された重さを読み取る」については、市の平均正答率とほぼ同程度であった。 ●分と秒で表された時間を秒の単位に換算することについては、市・県の平均正答率を下回った。	・学習内容と日常生活を関連付けて考えられるように日々の授業を工夫し、算数で学習したことを生活の中で生かすことができるよう働きかける。 ・授業の中で、操作的な活動を多く取り入れ、体験を通して学ぶことができるようにする。
図形	●「箱に入った同じ大きさの6個のボールから半径を求める」設問については、市・県の平均正答率を下回った。「円の直径についての理解」でも市・県の平均正答率を下回った。	・朝の学習や宿題プリント等を通して、既習事項の復習を繰り返し行い、基礎基本の定着を図る。作図の手順や道具の使い方をしっかり押さえて、繰り返し指導する。
数量関係	○「表や棒グラフからわかる正しい内容を選ぶ」については、市・県の平均正答率を上回った。 ○「棒グラフの目盛りの大きさを読みとる」については、市の平均正答率を上回った。 ●「合計が3000円になる乗り物の組み合わせを求める」設問では、市・県の平均正答率を下回った。	・グラフの学習には興味をもって取り組んでいるので、さらに学習が深められるよう、様々な問題に取り組ませしていく。 ・文章問題については内容を正しく読み取れるよう、分かっていることや求めることを整理したり、図に表したりするなど解決の手順を考えていけるよう支援していく。友達の考えを聞いたり自分の考えを話したりする場を多く設け、自分の考えを表現できるようにしていく。